

奈良県の障害者実雇用率が、再び全国第1位になりました



障害者雇用の取組紹介 介護老人保健施設サンライフ田原本

「地域を元気にする福祉の力+α連携」

「なら農福連携フェスタ」イベント報告

特別支援学校 奈良県立盲学校

精神・発達障害者しごとサポーター養成講座／就労パスポート

福祉事業所レストラン／商品カタログサイト「nara temono」

奈良県 奈良労働局
(障害者施設で作成しました)

障害者就労支援機関

公共職業安定所

職業紹介等職業に関するあらゆる相談を行います。特に公共職業安定所には専門の職員が配置されていて、きめ細かな相談に応じています。

ハローワーク奈良	〒630-8113 奈良市法蓮町 387 (奈良第 3 地方合同庁舎内)	TEL 0742-36-1601 FAX 0742-36-1608
ハローワーク大和高田	〒635-8585 大和高田市池田 574-6	TEL 0745-52-5801 FAX 0745-53-4181
ハローワーク桜井	〒633-0007 桜井市外山 285-4-5	TEL 0744-45-0112 FAX 0744-45-3990
ハローワーク下市	〒638-0041 吉野郡下市町下市 2772-1	TEL 0747-52-3867 FAX 0747-52-0406
ハローワーク大和郡山	〒639-1161 大和郡山市観音寺町 168-1	TEL 0743-52-4355 FAX 0743-55-0670

障害者就業・生活支援センター

職業生活における自立を図るために就業及びこれに伴う日常生活、または社会生活上の支援を必要とする障害のある人に対し、雇用、医療・保健、福祉、教育等の関係機関との連携を図りつつ、身近な地域において必要な指導、助言その他の支援を行います。

なら障害者就業・生活支援センター コンパス	〒630-8115 奈良市大宮町 3-5-39 やまと建設第 3 ビル 302	TEL 0742-32-5512 FAX 0742-93-7712
なら東和障害者就業・生活支援センター たいよう	〒633-0091 桜井市桜井 232 ヤガビル 3 階 302 号室	TEL 0744-43-4404 FAX 0744-43-4404
なら西和障害者就業・生活支援センター ライク	〒639-1134 大和郡山市柳 2-23-2	TEL 0743-85-7702 FAX 0743-85-7703
なら中和障害者就業・生活支援センター ブリッジ	〒634-0812 橿原市今井町 2-9-19 今井長屋 1	TEL 0744-23-7176 FAX 0744-23-7181
なら南和障害者就業・生活支援センター ハロー Job	〒638-0821 吉野郡大淀町下淵 158-9	TEL 0747-54-5511 FAX 0747-54-5501

奈良障害者職業センター

障害のある人に対して、ハローワーク(公共職業安定所)と協力して、就職に向けての相談、職業能力の評価、就職前の準備訓練から、就職後の職場適応のための援助まで、個々の障害のある人の状況に応じた継続的なサービスを提供します。

奈良障害者職業センター	〒630-8014 奈良市四条大路 4-2-4	TEL 0742-34-5335 FAX 0742-34-1899
-------------	----------------------------	--------------------------------------

独立行政法人 高齢・障害・求職者雇用支援機構

高年齢者等及び障害者の雇用に関する相談・援助、助成金の支給申請の受付、障害者雇用納付金制度に基づく申告・申請の受付、啓発等の業務を実施しています。

奈良支部	〒634-0033 橿原市城殿町 433 奈良職業能力開発促進センター(ポリテクセンター奈良)内	TEL 0744-22-5232 FAX 0744-22-5234
------	---	--------------------------------------

発行元	奈良県福祉医療部障害福祉課 〒630-8501 奈良市登大路町 30 番地 TEL 0742-27-8514 FAX 0742-22-1814	奈良労働局職業安定部職業対策課 〒630-8570 奈良市法蓮町 387 番地 奈良第 3 地方合同庁舎 2 階 TEL 0742-32-0209 FAX 0742-32-0225
作成	社会福祉法人ぷろぼの 〒630-8115 奈良市大宮町 3 丁目 5-39 第 3 やまと建設ビル 201 号 TEL/FAX 0742-81-7032	

奈良県の障害者実雇用率が、再び全国 第1位になりました

令和元年の障害者雇用状況報告（6月1日現在）の全国集計の結果、奈良県内の民間企業における実雇用率が2.79%となり、再び全国1位となりました。平成28・29年は2年連続で全国第1位でしたが、平成30年は第2位となっていました。それぞれの民間企業や行政、就労関係機関等が連携し、障害者雇用にかかわる様々な取組を進めてきた成果の表れであると確信しています。皆様に感謝申し上げますとともに、引き続き、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

集計結果の主なポイント！

民間企業

法定雇用率2.2%
常用労働者数45.5人以上企業対象

- 雇用障害者数
2,616.5人 前年より 167.0人 **UP↑**
- 実雇用率
2.79% 前年より 0.12ポイント **UP↑**
- 法定雇用率達成企業の割合
59.8% 前年より 2.4ポイント **UP↑**

公的機関

法定雇用率2.5%
都道府県などの教育委員会は2.4%

- 県及び市町村
雇用障害者数は 441.0人
実雇用率は 2.57%
- 県内教育委員会（2.4%適用）
雇用障害者数は 135.5人
実雇用率は 1.57%

民間企業における雇用状況

- 障害種別の状況
身体障害者 1,356.0人 前年より 27.5人 **UP↑**
知的障害者 933.5人 前年より 104.0人 **UP↑**
精神障害者 327.0人 前年より 35.5人 **UP↑**
- 報告企業
企業数 659社
前年より 14社 **UP↑**

お知らせ！

令和3年4月より前に法定雇用率が、更に**0.1%**引き上げられ**2.3%**となり、対象となる民間企業は、常用労働者数**43.5人**以上に広がります。

【一般民間企業における雇用率設定基準】

$$\text{障害者雇用率} = \frac{\text{身体障害者、知的障害者及び精神障害者である常用労働者の数} + \text{失業している身体障害者、知的障害者及び精神障害者の数}}{\text{常用労働者数} + \text{失業者数}}$$

<主な留意事項>

- ※重度身体障害者または重度知的障害者については、その1人の雇用をもって、2人の身体障害者または知的障害者を雇用しているものとしてカウントされる。
- ※重度身体障害者または重度知的障害者である短時間労働者（1週間の所定労働時間が20時間以上30時間未満の労働者）については、1人分として、重度以外の身体障害者及び知的障害者並びに精神障害者である短時間労働者については、0.5人分としてカウントされる。

奈良県障害者雇用促進ジャーナル

はたらく

No.13 2020年2月発行

障害者実雇用率が再び、全国第1位

令和3年4月より前に法定雇用率が更に0.1%引き上げ

障害者雇用の取組紹介 Vol.12

介護老人保健施設サンライフ田原本（医療法人清和会）

後輩の指導を通してスキルアップ

「地域を元気にする福祉の力+α連携」

奈良県障害者政策推進トップフォーラムでの講演

「なら農福連携フェスタ」イベント報告

特別支援学校 Vol.10

奈良県立盲学校

精神・発達障害者しごとサポーター養成講座

就労パスポート

福祉事業所レストラン Vol.11

雪丸カフェ ポエム

商品カタログサイト「nara temono」

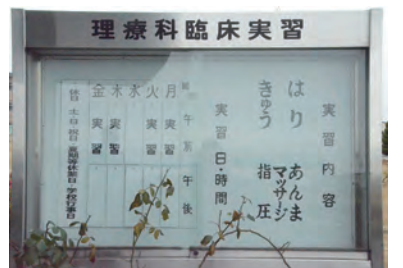
「奈良県障害者雇用促進ジャーナル」は、県内の企業や経済・労働団体等の皆様に、障害者雇用施策や障害者雇用に関する制度、障害者雇用に関する先進事例などを紹介し、障害者雇用に関する様々な情報を共有していただくことができるよう、奈良県と奈良労働局が共同で発行しています。

このジャーナルを通じて、障害のある人が一人でも多く就労し、働き続けるための一助となることを期待しています。

是非ともご一読いただきまして、奈良県における障害者雇用の推進に、より一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



サンライフ田原本



奈良県立盲学校



nara temono

介護老人保健施設サンライフ田原本(医療法人清和会)



写真① 川元さん

後輩の指導を通してスキルアップ

医療法人清和会は、老人保健施設、老人福祉施設、デイサービスセンター、ヘルパーステーション、居宅介護支援センター、クリニックなどの施設、ショートステイ、デイケア、デイサービス、入所サービス、訪問入浴、訪問介護、相談サービスなどのサービスメニューなど、リハビリや介護、医療などの相談ごとから要介護状態の全ステージに至るまでのトータルサポート体制をとっておられます。今回、知的障害のある若者を初めて採用し、介護補助スタッフから介護スタッフへとスキルアップしていった様子についてお話を伺いました。

つながりを大切に

医療法人清和会は、国分医院、サンライフ奈良、サンライフ田原本、デイ・サンライフ高田などにおける施設サービスの他、訪問入浴、訪問介護、配食サービス、寝具洗濯サービスなどの居宅介護支援事業を行っています。

町の公園のように身近な場所に事業所があり、利用者も家族も訪れやすい都市型立地を特徴とし、生活リハビリや楽しいレクリエーション、そして何よりも心のつながり、家族のつながりを大切にしたいサービスに取り組まれています。



サンライフ田原本の外観

職場実習の受入を通して

医療法人清和会では、これまで身体に障害のある人を雇用されていましたが、4年前から知的障害のある人を雇用されています。サンライフ田原本は近隣に県立二階堂養護学校、県立高等養護学校がありますが、両校だけでなく県内の特別支援学校の生徒の職場実習を積極的に受け入れてくださっています。

現在、県立高等養護学校を卒業し、県立高等技術専門校の訓練を終えた川元さん(写真①)が、サンライフ田原本で働かれています。

このたび、事務局長の石橋さん(写真②)に、川元さんの採用後からこれまでいたる経緯についてお話を伺いました。

介護の仕事に就きたい

川元さんは、県立高等技術専門校からサンライフ田原本で実習していただきました。実習では、介護の仕事に就きたいという意欲があり、人と接することが好きで周囲を和ませるキャラクターを持ち備えているところを高く評価していました。川元さんの2年先輩の知的障害のある方をサンライフ奈良で雇用していました。

この方は、サンライフ奈良の環境では少し行き詰っていましたので、同年代の多いサンライフ田原本が良いのではないかと判断でサンライフ田原本に異動しましたが、途中でやはり難しく半年後に退職となりました。その反省もあり、川元さんには、実習をサンライフ田原本で行っていただき、本人の希望もあり、サンライフ田原本で採用することになりました。



写真② 事務局長の石橋さん

本で採用することになりました。採用当初は、仕事を覚えることが精一杯で、仕事に集中できなかったり、心ここにあらずといった場面が見られたりしたそうです。周囲の同年代のスタッフと交わる余裕が出てきた頃に、県立高等養護学校の新



写真③ 事務局長の石橋さん

卒者の採用が決まりました。川元さんにとっては、はじめて職場の後輩ができることになりました。

後輩の指導を担当して

事務局長の石橋さんは、新規採用することになった後輩の指導を川元さんに委ねてみることにしました。

後輩の指導をするようになって、仕事の段取りをつけることができるようになったり、作業に責任感をもって取り組めるようになったりする姿が見られるようになったそうです。周囲のスタッフからも信頼されるようになり、介護補助から介護スタッフへとスキルアップし、今ではサンライフ田原本にとってなくてはならない存在となつていくそうです。

川元さんは、最近、給料を貯金したお金で自動車の免許を取得して、マイカーを購入したそうです。休日に

サンライフ田原本 介護老人保健施設

〒636-0237
奈良県磯城郡田原本町大字小阪305-1
TEL 0744-34-3344
経営主体:医療法人清和会(理事長 國分清和)
定員:入所102名・通所リハビリテーション37名
併設事業:在宅介護支援センター・訪問介護・訪問入浴



ホールに掲示されていた利用者さんの作品

はドライブを楽しんでいるそうです。人と接することが得意で周囲を和ませるキャラクターで、利用者の特徴や苦手なところを正確に記憶することができる川元さんは、自分に合う良い仕事に出会えたのではないかと思いますと事務局長の石橋さんは笑顔でお話してくださいました。

なら農福連携フェスタ

障害のある人にとって、農業は働く場としての選択肢を増やすだけでなく、自然と接することによる健康への好影響も期待できます。

また、障害のある人が農業で活躍することを通じて、農業そして地域を元気にしていくというメリットが考えられます。

奈良県では、農福連携の取組を進めています。



令和2年1月25日(土)・26日(日)イオンモール大和郡山

なら農福連携フェスタ開催

奈良県では、農福連携による販売会や取組紹介、障害理解イベント等を内容とする「なら農福連携フェスタ」を1月25日(土)と26日(日)の二日間、イオンモール大和郡山の北小路コートと南小路コートを会場として、農業者や障害のある人たちが心を込めて作った農作物や手づくり品のブースを設けて販売しました。



上：ひかり園音楽隊
下：農産物販売会

農福連携シンポジウム

また、同イオンホールでは、農福連携の具体的取組と今後の課題をテーマとしたシンポジウムを開催しました。トップフォーラムにてご講演いただいた一般社団法人日本農福連携協会顧問の濱田健司(はまだ けんじ)さんによる基調講演と農業者と福祉関係者による意見交換を行いました。また、“爆笑”お笑い野菜講座ベジ

農福連携シンポジウム

【基調講演】

テーマ：地域を元気にする福祉の力～農福+α連携～

講師：濱田 健司(はまだ けんじ)氏
一般社団法人日本農福連携協会 顧問

内容：農福連携について、一般の人々への普及するための意識啓発や農業だけでなく水産業・林業・エネルギー産業・商業など領域の拡大、障害者だけでなく生活困窮者・ニート・引きこもりや要介護高齢者などへ対象がひろがっていくことにより、農業と福祉が輝くだけでなく、地域が輝くことで地域創生へと発展していくことが期待できる。

【意見交換の内容】

《農業者》黒瀬礼子氏(植村牧場)、上野由香氏(王隠堂農園)

- 障害のある人のできる作業をやることで、元気で長く続けて働くことが大切。
- 農業で雇用した後、現場と本人の両方から不安や不満を聞き取って調整する役割が必要
- 廃棄ロスを極力減らすことで無駄をなくし、収益につなげていく。
- 生産から加工・販売へ展開。

《障害者施設》六十谷進氏(アンダンテ農園)、小倉章文氏(フレンズまきば)

- 利用者の努力に見合った工賃を払うことが難しい現実がある。
- 勤務時間と農業労働の時間にズレが生じている。
- 法人からのバックアップも必要。補助金の活用など。
- 屋外に出て汗をかくことや土に触れることなどに魅力を感じている。
- 体調管理は、本人の申告を大事にしながら現場での話し合いを大切にしている。
- 地域とのつながりを大切にして、地域に恩返しすることができる実力をつけていきたい。
- 消費者と顔が見える連携を深め、消費者が安心できる食料生産に取り組んでいきたい

《まとめ》

- 農作業の受託などやりやすいところから始めて、工賃の向上を図る取組へと展開していく。
- 今後は、農福連携の対象が広まっていくことが期待されている。

地域を元気にする福祉の力+α連携

奈良県障害者政策推進トップフォーラムでの講演

農林水産省農林水産政策研究所 客員研究員

一般社団法人日本農福連携協会 顧問 JA 共済総合研究所 主任研究員

農業経済学博士 濱田 健司 (はまだ けんじ)



奈良県では、障害のある人が誇りをもって人生を歩むことができ、誰もが社会の一員として包み込まれお互いに支え合う地域社会の実現を目指し、県内各界のトップが障害者の課題を共有し、取組を推進できるよう「奈良県障害者政策推進トップフォーラム」を開催しています。
8回目となる今回は、9月2日に開催し、農業経済学博士の濱田健司先生にご講演をいただきました。この講演内容を紹介します。

農福連携の取組

福祉の現場では、昼食で利用する食材の加工などを生産したり、農に関わる仕事を業務請負したりしています。また、事業所自らが農業法人を設立して、本格的に農業に取り組みで雇用の場を創出しているところもあります。

具体的な先進事例の紹介

社会福祉法人白鳩会(しらはとかい)は、鹿児島県南大隅町に農事組合法人を設立し、「花の木農場」で農業と農産物加工を行い、知的障害のある人の生活の場と職業訓練の場を提供しています。

農作業を一つ一つ分解したり、道具を工夫したりすることによって、3倍の時間がかかっても障害のある人の可能性を引き出し、障害のある人がやる気になって働くことで売り上げも

アップしています。

更には、農と福祉が連携することで、地域の交流の場ができ、地域の方々と様々な形で取り組みが進んでいます。

期待される農福連携

一般の方々にも農福連携ということを知っていただき、障害のある人が地域で役割を果たすことができるということを知っていただくことが大切であると思います。

障害のある人が地域を支えることができるということを農福連携で知っていただくことが大きな目的のひとつでもあります。

政府の官房長官がトップを務める「農福連携等推進会議」が開催されています。国レベルでも農福連携の取組が進んでいます。

農福連携は、障害のある人だけでなく、農業、林業にも広がっていく、

トークショーを野菜芸人で実業家でもある土肥ボン太さんが、農業の楽しさややり甲斐などを自らの体験を通じて、おもしろおかしくお話いただきました。

その他、地域で音楽活動を行う団体による演奏や、大和郡山市にある障害者福祉施設ひかり園の利用者と職員がマリンバ奏者の松本真理子さんの指揮による合唱を行いました。



左上：濱田氏
左下：シンポジウム風景
右：土肥ボン太氏

講師プロフィール



濱田 健司
(はまだ けんじ)

- ・昭和44年(1969年)生まれ
- ・東京農業大学大学院修了 農業経済学博士
- ・農林水産省農林水産政策研究所 客員研究員
- ・一般社団法人日本農福連携協会 顧問
- ・JA共済総合研究所 主任研究員

農林水産省農林水産政策研究所客員研究員として、障害者・生活困窮者・高齢者等が地域の農林水産業および商業・工業などに従事することで地域を活性化していく農福連携及び農福 + α連携の取組について研究し、行政や関係機関等への助言も積極的に行っている。

あるいは生活困窮者(出所者を含む)、生活保護受給者、高齢者、ニート、引きこもり等への広がりが、今後期待されています。
今年に入ってJAも農福連携に取り組むようになり、農福連携が、農福+α連携になるということで様々な地域の課題に対応することができ、地域が輝いていきます。

農福連携が地域を元気にして、あらゆる人間が支え合う多様な命が役割を果たす社会が構築され、人間と自然が共生する社会づくりができるのが「農福+α連携」と思います。

奈良県立盲学校

国家試験の受験資格も取得できる
視覚障害者の自立と社会参加のための学舎



前列左から：広中嘉隆校長、山中俊和教頭
後列左から：進路指導部 本谷孝一教諭、
進路指導部 尾池大樹教諭



創立 100 周年を祝う横断幕がかかる理療科臨床実習棟。

取材の日、校門から「創立100周年」の文字がきわだつ横断幕が見えました。県立盲学校は大正9年、私立の盲啞学校として奈良市内で創立された、県内で最も歴史ある特別支援学校です。昭和6年に県立に移管、奈良県立盲啞学校と改称されました。昭和44年、大和郡山市丹後庄町に移転され現在に至ります。ここに、幼稚園（3歳以上）から高等部まで39名の視覚障害のある児童、生徒たちが通っています（令和元年5月1日現在）。

盲学校ならではの国家資格取得を目指す特別な学科

入学は、網膜色素変性症や緑内障などの視覚機能障害があり視力が0・3未満の人が対象です。知的障害など他の障害も重複している生徒も含まれ、先天性の人だけでなく、

疾患によって後天的に視力を失った人もおられます。全盲の人は3割と少なく、7割は少しは見える、視野に制限があるなど人それぞれの障害があります。全学年で一般的な公立学校に準じた教育課程があり、高等部にはこの他に保健理療科、専攻科理療科という学科があるのが大きな特徴です。

保健理療科は、中学卒業以上の人が入学でき、あんま・マッサージ・指圧の国家試験の受験資格が得られ、合格するとあんまマッサージ指圧師の免許を取得できます。

専攻科理療科は、入学資格が高校卒業以上であり、鍼灸も加わった資格取得を目指します。合格するとあんまマッサージ指圧師・はり師・きゅう師の免許を取得できます。普通科や保健理療科からの内部進学もできます。視覚障害者ならではの職業であるマッサージ業・鍼灸業に就くため

の本格的な勉強をする公立学校なのです。

ただ、生徒数は減少傾向にあり、各学年とも一人から二人がほとんどで、中にはゼロの学年もあります。背景には、子どもの数が減っていること、地域の学校での受け入れが増えている（県立盲学校では、その支援も行なっています）ことが推測されます。逆に言えば、マンツーマンに近い丁寧な教育を受けられるようになっていきます。

かつては、内部進学（中学部から保健理療科へ、高等部普通科や保健理療科から専攻科理療科へ）する人も多かったのですが、時代の変化とともに進路が多様化し内部進学は少なく、現在の理療科には、社会人として就職している間に視力を失い、マッサージ業・鍼灸業としてリスタートするために学びたい人が入学しています。なかには60代の人もおられ、

人生の後半を社会参加しながら貢献したいという動機から学んでいるそうです。この幅広い年齢層も、盲学校の他にない特色です。

進路や就職先は

高等部卒業後の進路先としては一般就労に就く人は少なく、大学（今年は大阪府立大学へ一人）や理療科教員養成科などへの進学、就労継続B型や生活介護など福祉サービスの利用、そして国家資格を取得した人が治療院、訪問マッサージ業など専門性を活かした就職へ。奈良県内をはじめ大阪、京都への就職もあります。視覚に障害があると、不慣れな道は危険を伴うため居住地から電車パ

スで通勤できるところが望ましく、どうしても場所は限定されます。その点では、都市部から離れた場所では、資格があっても働く場がないということもあるそうです。

卒業生を雇用している事業所から、「働きぶりがよかったので今年も雇いたい」と声がかかることもあります。「理療科の生徒は真面目な人が多いです。社会人になってから、もう一度学んで国家資格を取ろうという人たちがすから」と、広中嘉隆校長。先輩が就労している職場は、後から就職する生徒も環境が整っているので安心感があります。

国家試験に合格しなかった場合は、試験会場が同校であることもあります。卒業生のフォロワーもしています。

職業的自立と社会参加のために

視覚障害者にとって法的に守られた職業であった理療は平成10年に法律が変わり、以後晴眼者を対象とした養成機関が増えました。街角には多数の治療院やサロン等がひしめき、中にはマッサージ等の呼称を避けて無免許者が施術するケースも。広中校長は「視覚障害者の仕事を守ることが大きな課題になってきている」と語ります。しかし、視覚障害者の自立にとって理療科の存在は大きく、また、どんなに子どもの数が減少化しても「ニーズが消えることはありません。どうしても必要な人にきちんと教育ができるように」との思いで未来を展望しています。



理療科の授業のための教材。



臨床実習の様子。教育者が視覚障害者である場合もあり、当事者の立場を理解した指導が行われている。



理療科臨床実習棟の内部は実際の治療院さながらの設備。一般市民からモデルとなる患者を受け入れており、予約はすぐに埋まる人気ぶりだ。

学校内の様子



教室：授業風景(中・高等部)



教室：ITも導入



図書室：写真右は、文字の白黒を反転して表示する機械



体育館：壁面にクッション材



教室：点字プリンター



奈良県立盲学校

〒639-1122 大和郡山市丹後庄町 222-1
TEL 0743-56-3171 FAX 0743-56-9148
<http://www.e-net.nara.jp/sns/mou/>



福祉事業所 レストラン

障害のある人たちが働いている
福祉事業所が運営しているレストランを紹介します

Vol.11

雪丸 Cafe Poem

(カフェ ポエム)



王寺町地域交流センター（りーべる王寺東館5階）に障害のある人たちが働く「雪丸カフェポエム」があります。知的障害のある人たちが働く福祉事業所を運営するNPO法人「ポエム」が、コーヒーやジュース、スイーツやデザート、他、焼きカレーやナポリタンなどのランチやサンドイッチなどの軽食、作業所で作ったクッキーなどを販売しています。また、町のマスコットキャラクター「雪丸」のグッズも販売しています。

雪丸 Cafe Poem

(特定非営利活動法人「ポエム」)

住所 北葛城郡王寺町久度2-1-1
王寺町地域交流センター
(りーべる王寺東館5階)

定休日 水曜日

時間 10:00～16:30
(ラストオーダー 16:00)

電話 080-9127-6955

アクセス JR王寺駅直結



メニュー

【ランチ】11:00～13:30

焼きカレー 550円

ナポリタン(平日限定) 550円

かけうどん(平日限定) 400円

【軽食】

サンドイッチ 250円

ピザフリッタ 250円

【スイーツ】

ゆきまーる 450円

季節のケーキ 450円



※価格は消費税込み

障害のある方を雇用している、
または雇用しようとしている

事業主の皆さまへ

全国各地で絶賛開催中!

精神・発達障害者しごとサポーター養成講座

精神障害、発達障害のある方々の雇用は、年々増加しています。これらの方々が安定して働き続けるためのポイントの一つは「職場において同僚や上司がその人の障害特性について理解し、共に働く上での配慮があること」ですが、企業で働く一般の従業員の方が障害等に関する基礎的な知識や情報を得る機会は限られていました。このため、労働局・ハローワークでは、一般の従業員の方を主な対象に、精神障害、発達障害に関して正しく理解いただき、職場における応援者(精神・発達障害者しごとサポーター)となっていただくための講座を開催しています。

しごとサポーターポータルサイトを開設しています。
受講者の声をはじめ、幅広い情報をご覧ください



しごとサポーター

検索



ご注意ください

- 「精神・発達障害者しごとサポーター」は特別な資格制度等ではありません。また、本講座の受講により、職場の中で障害者に対する特別な役割を求めるものでもありません。
- 「精神・発達障害者しごとサポーター」の養成は、広く職場における精神障害、発達障害に関する正しい理解の浸透を図り、精神・発達障害者にとって働きやすい職場環境づくりを推進し、「障害者と一緒に働くことが当たり前」の社会になることを後押しすることを目的としています。

NEW!

eラーニング版を始めました!

「まず基礎知識を学びたい」という方はぜひご利用ください。



しごとサポーター eラーニング

検索



事業所への出前講座もあります!

ご活用ください!

就職や職場定着に向けた情報共有ツール
障害のある方の就労パスポート

障害のある方々の雇用が年々増加している中、ハローワークと地域の就労支援機関との連携による支援を活用している場合には職場定着率が高くなる傾向にあります。このため、厚生労働省では、障害のある方が、働く上での自分の特徴やアピールポイント、希望する配慮などを就労支援機関と一緒に整理し、就職や職場定着に向け、職場や支援機関と必要な支援について話し合う際に活用できる情報共有ツール「就労パスポート」を作成しました。

就労パスポートについて

様式は、障害のある方が安定して働き続ける上で自己理解を深めることが望まれ、かつ、事業主などに理解してもらうことが望まれる項目(希望する配慮、職場環境整備など)で構成されています。

就労パスポートの利活用にあたって

- 作成・更新した就労パスポートは、障害のある方本人が保管します。また、事業主や支援機関に提供する場合、提供の範囲は本人の意向によります。
- 就労パスポートは採用選考時の必須提出書類ではありません。
- 事業主や支援機関に対して記載内容を説明する際、基本的には本人が主体となって行いますが、本人が支援機関に説明の支援を依頼することがあります。

様式、活用ガイドラインは、厚生労働省ホームページからダウンロードできます!

厚労省 就労パスポート

検索

奈良の障害のある人が作った商品カタログサイト「nara temono」



手軽に
使いやすくなりました
「nara temono」(ならてもの)は、奈良の障害のある人が作った商品のカタログです。より多くの方々に知っていただくために、情報を手軽に取得できるようデータベースサーバーを活用した新たなホームページを作成し情報発信を行っています。食品・スイーツ・雑貨などのカテゴリや、販売価格、販売地域などを指定して検索できるようになりましたので是非ご活用ください。

2020/3/1
公開

奈良の障害のある人が作った商品のカタログ
nara temono

URL: <https://naratemono.com>



※奈良県内の全ての授産品、カフェ・レストランを掲載したものではありません。